



機械学習による 波浪中リアルタイム船体運動予測

2023年12月4日

株式会社MTI シンガポール支店 小川 大智



目的

船体動揺予測により海上作業の安全性向上

- ・海上作業において波浪による船体(浮体)動揺の予測は重要
- 安全性を高めていくために、作業時にリアルタイムに船体動揺を予測する技術の開発が求められている
- シンガポール海洋系研究機関TCOMS (Technology Centre for Offshore and Marine, Singapore) との共同研究







海上作業における安全性担保の為、数十秒後~数分後の船体動揺を予測できるような技術開発を目指す。

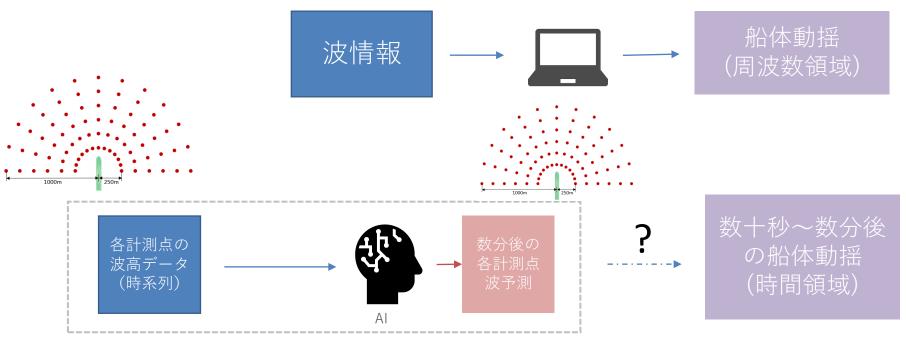
近未来の船体動揺を予測するためには時間領域 での解析が必要だが、この部分に関する検討は 少ない。



数十秒~数分後 の船体動揺 (時間領域)



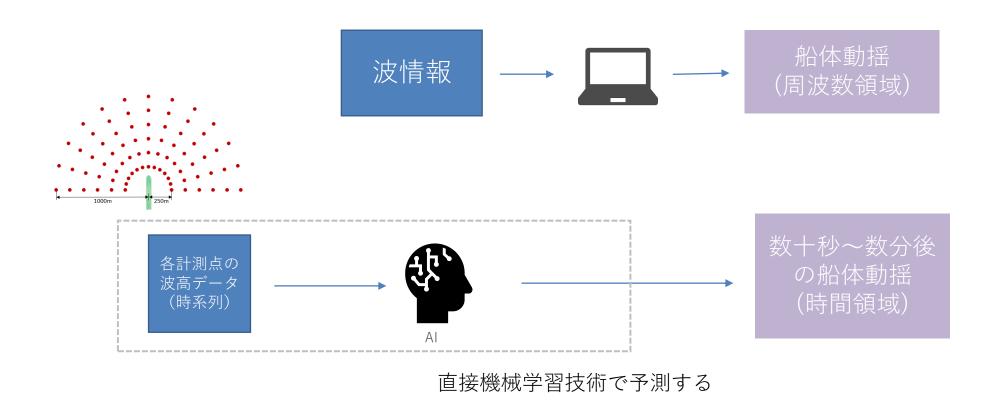




活用する既存技術





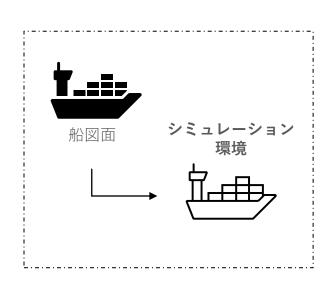


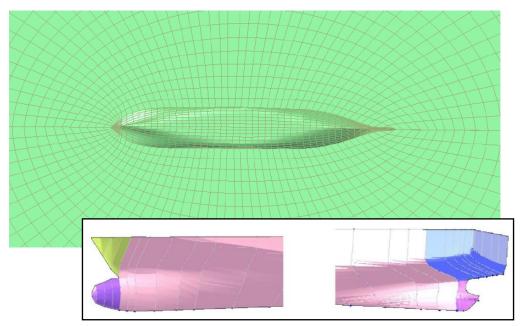
周囲の時系列波高データから、機械学習で船体動揺を直接予測できるかを検討 MTIで情報のある大型船・シミュレーション環境上での検証から始める





大型船の3次元モデル作成





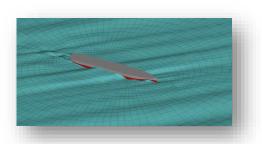
Ship Type	Container
Length	~350m
Breadth	~50m
Draft	~14m
Block Coefficient	~0.6
Metacentric Height	~2.3m

シミュレーション環境WASIM(時間領域)上で大型コンテナ船モデルを作成



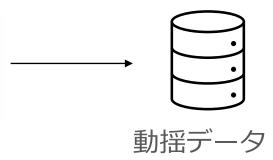


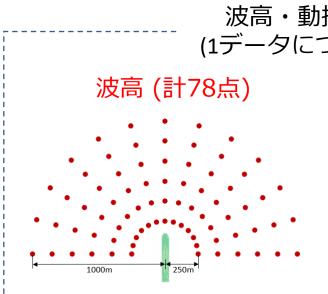
シミュレーション環境上での動揺データ収集



シミュレーション 環境







周囲の仮想計測点(78点) の時系列波高データ

波高・動揺データ (1データにつき計84点)

> 6 DOF船体動揺 (計6点)



(Surge-Sway, Heave-Pitch, Yaw-Roll)

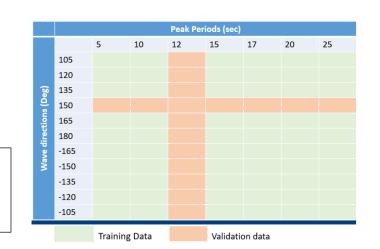


波データ (時系列)

5000秒, 2Hz (計1万点)での動揺シミュレーション **JONSWAP**

308の波浪条件(4種有義波高、11種波向、7種peak period) 計約300万点の波高・動揺データを作成

シミュレーション環境上で5,000秒間大型船を揺らし、 周囲の波高と船体動揺データを収集



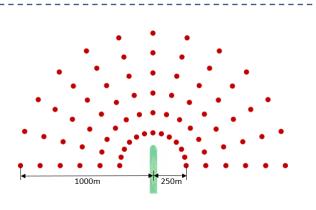




機械学習・予測手法



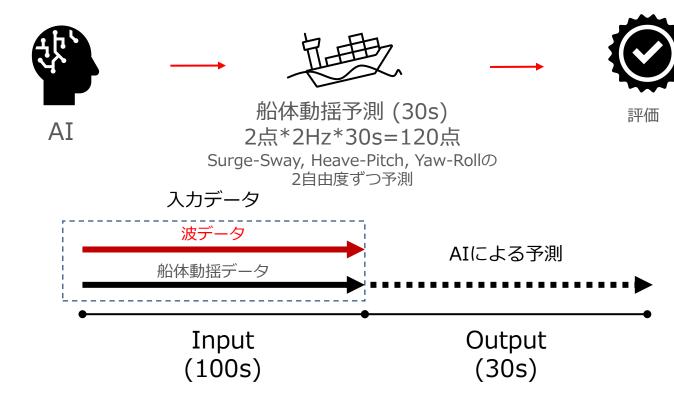
入力データ (100s) (78+6)点*2Hz*100s=16,800点



周囲の仮想計測点(78点) の時系列波高データ



時系列 6 DOF船体動揺 (Surge-Sway, Heave-Pitch, Yaw-Roll)



Model Architecture

Layer	Activation	Output Shape	# Parameters
Flatten	-	(None, 16800)	0
Dense	ReLu	(None, 1024)	17204224
Dense	ReLu	(None, 512)	524800
Dense	Linear	(None, 120)	61560
Reshape	-	(None, 60, 2)	0





機械学習に用いた波浪データ

Training / Validationデータ

JONSWAP

計308の波浪条件

有義波高:4種類 (0.5m, 1m, 2m, 3m)

波向:11種類(105, 120, 135, 150, 165, 180, -165, 150,

-135, 120, -105)

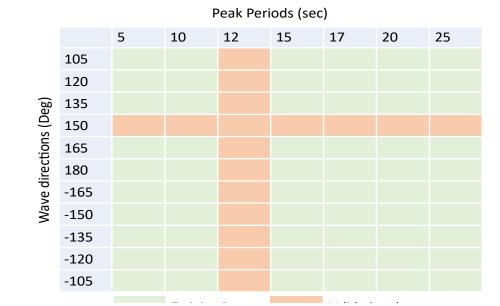
Peak period: 7種類 (5, 10, 12, 15, 17, 20, 25s)

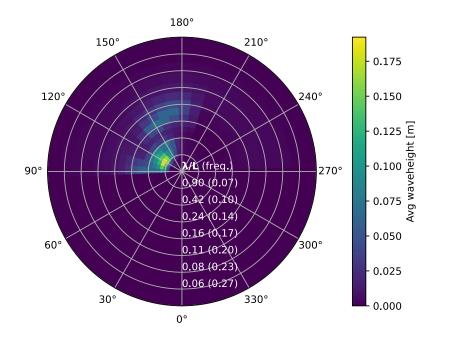
各波浪条件につき、5000秒, 2Hzのデータセット

Testデータ

より実航海に近い波条件でTest

コンテナ船に設置した波浪レーダーで取得した波浪情報を inputとしたWASIMシミュレーション

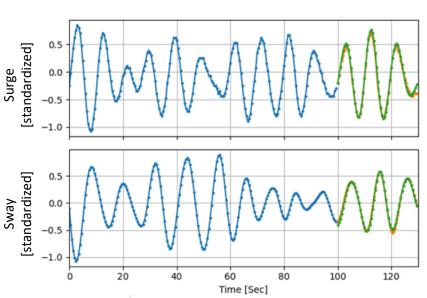




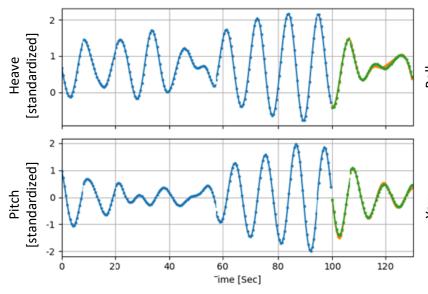




船体動摇予測結果



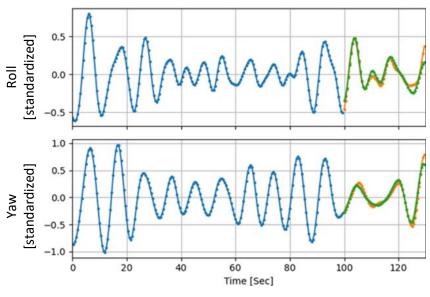
上グラフ: Surge 下グラフ: Sway



上グラフ: Heave 下グラフ: Pitch



- -テストデータ (Label)
- -機械学習予測結果 (Prediction)



上グラフ: Roll 下グラフ: Yaw

各動揺の値について標準化

$$X' = \frac{X - X_{mean}}{X_{sd}}$$

χ' χ

X_{mean}

 X_{sd}

標準化された各6DOF値

6DOF計測值

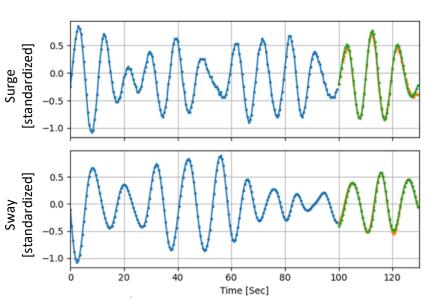
Train dataにおける6DOF値の平均

Train dataにおける6DOF値標準偏差



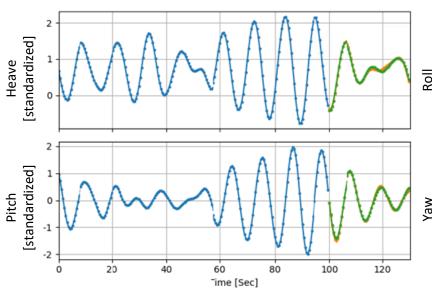


船体動摇予測結果



上グラフ: Surge 下グラフ: Sway

Output期間(30s)における 平均二乗誤差(MSE)



上グラフ: Heave 下グラフ: Pitch

1	Roll [standardized]	0.5		\\\\\	W	M	M	V
/	Yaw [standardized]	1.0 0.5 0.0 -0.5 -1.0	20	40	60 Time [Sec]	80 10	00 12	20

-機械学習予測結果 (Prediction)

- 入力データ (Input)

-テストデータ (Label)

上グラフ: Roll 下グラフ: Yaw

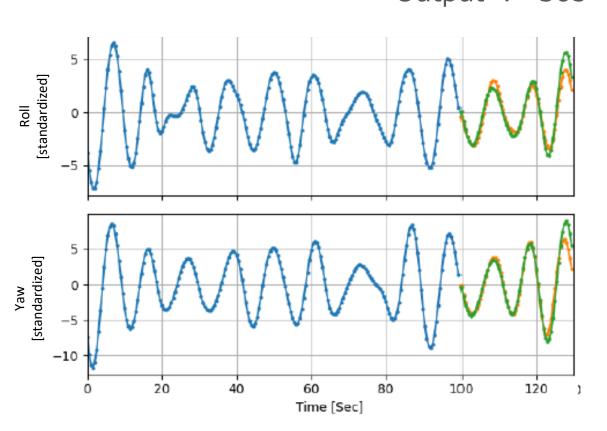
	MSE
Surge-Sway	0.1348
Heave-Pitch	0.0373
Yaw-Roll	0.1202





Time Windowの影響

Input : 100s Output : 30s



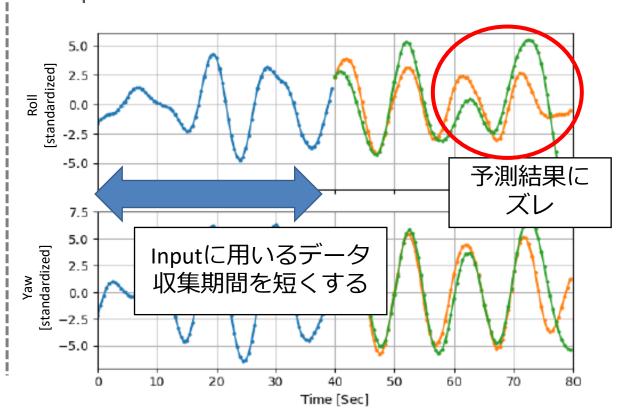
上グラフ: Roll 下グラフ: Yaw

Output期間における 平均二乗誤差(MSE) - 入力データ (Input)

-テストデータ (Label)

-機械学習予測結果 (Prediction)

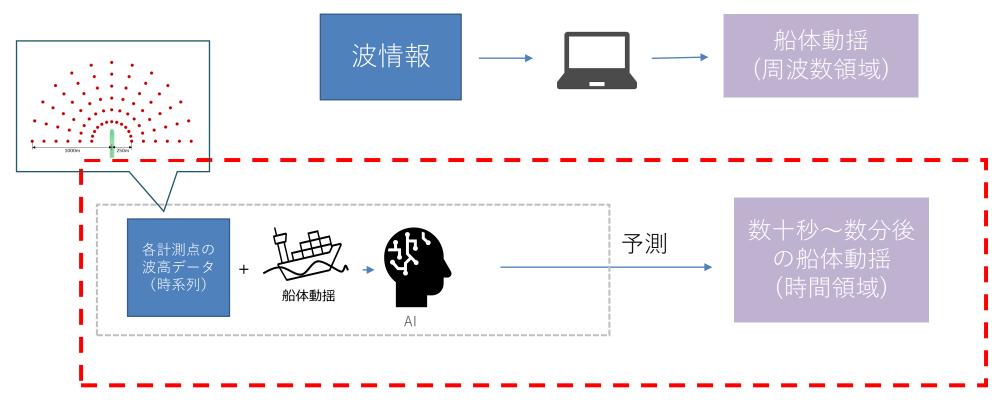
Input: 40s Output: 40s



	MSE
Roll input 100s – output 30s	0.12
Roll input 40s – output 40s	0.36







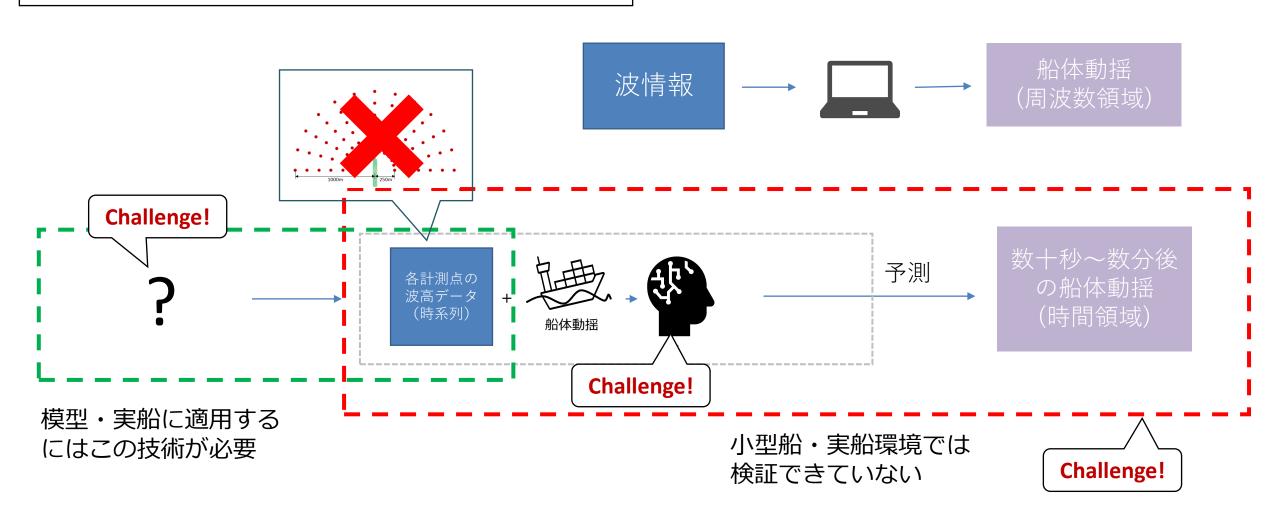
大型船・シミュレーション環境

大型船のシミュレーションの世界で、仮想78点の波高が分かれば機械学習を用いて、時間領域での船体動揺を予測できる可能性を示した。





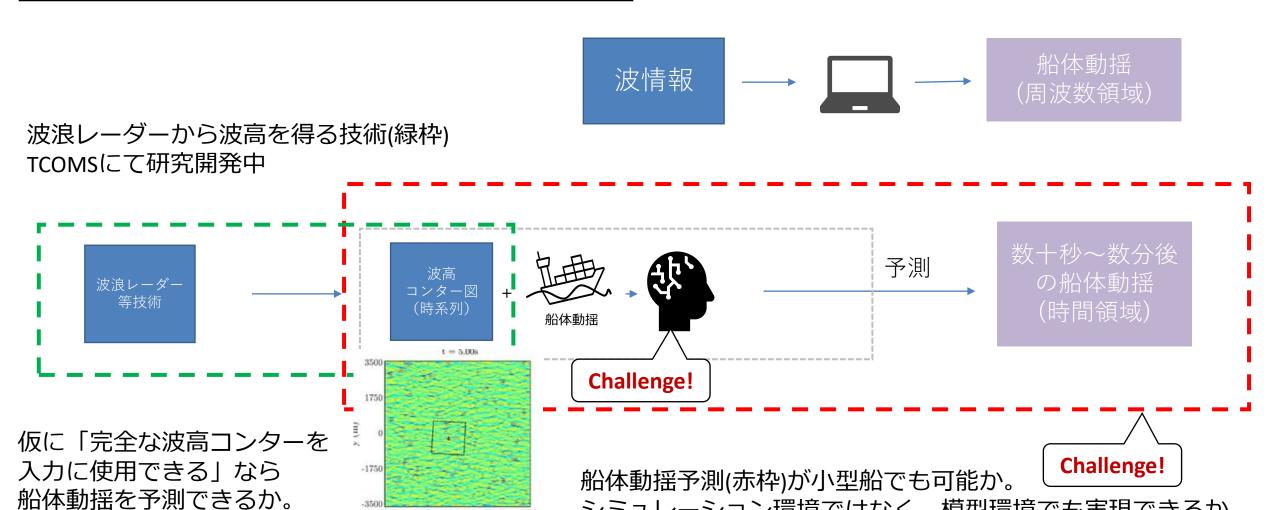
船体動揺予測確立に必要な技術







現在研究中のトピック



シミュレーション環境ではなく、模型環境でも実現できるか。

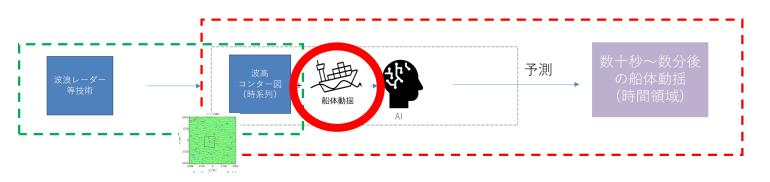
波情報を得る技術については、様々なアイデアを募集し検討していきたい。

x (m)

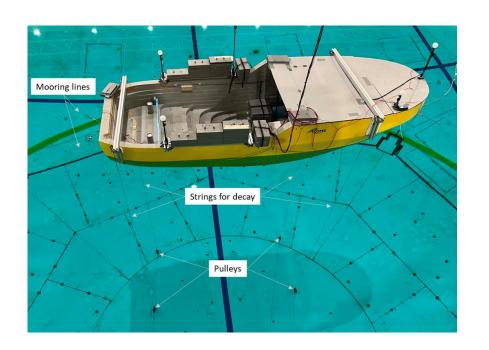




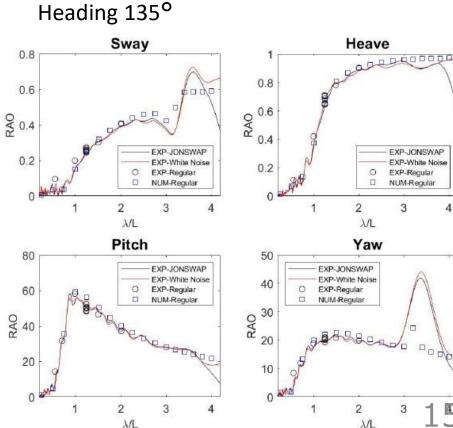
研究中のトピック -小型船模型試験



WASIM小型船 3 次元モデルを作成 周波数領域に変換し、RAO(Response Amplitude Operator,船体応答関数)を 計算



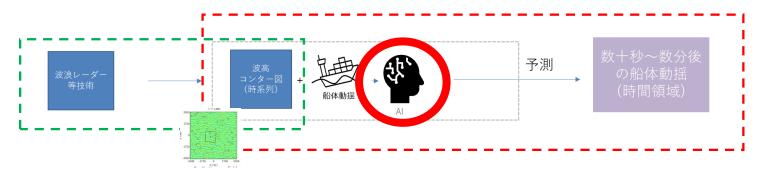
Surge 8.0 0.6 0.4 W 0.2 EXP-White Noise EXP-Regular NUM-Regular λ/L Roll 800 EXP-JONSWAP EXP-White Noise EXP-Regular 600 NUM-Regular Q 400 200



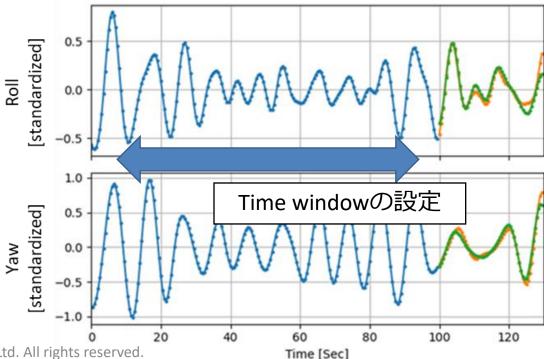




研究中のトピック -船体動揺予測モデルの開発



実験結果との違いを修正して、小型船シミュレーション環境・模型環境で 船体動揺を予測するためのモデルを開発中。



Time windowの設定による予測精度 100秒のinputで、何分先まで船体動揺を 予測できるか。 この技術の将来性を判別する。





本研究のまとめと課題

シミュレーション環境下で構築した波データと船体動揺データを機械学習させ、船体動揺を10% 程度の誤差範囲内で予測できるモデルを作成した。

一方でこの予測は大型船の特定のシミュレーション環境に限った条件で行われたもので、実船への適用には課題が残る。

- 1. 時間領域でのシミュレーション 時間領域での検討がMTIでは少なく、近未来の船体動揺を正確に予測するにはより時間領域での シミュレーション技術開発が必要。
- 2. 周囲の波高情報の取得技術の確立 離散78点の波高情報があれば船体動揺を予測できる可能性を示したが、現在そのような技術は ない。波浪レーダーからの解析など、新しい技術開発に期待。
- 3. 機械学習技術 異なる船型・異なる海象・異なる条件でも予測可能か、機械学習モデルについても更に検討して いかなければならない。





CTVへの適用

- 2023年就航CTV "RERA AS"にて船体動揺データを取得すると共に、 波浪レーダーを設置し実航海での 波浪画像を収集開始。
- 2025-26年頃にはCTV実船への 動揺予測モデル搭載を目指す。
- ・ハード面での安全移乗対策と併せ、 作業員の安全確保を目指す。



https://www.nyk.com/news/2023/20230705_01.html





ご清聴ありがとうございました。